

平成 25 年 6 月 27 日
沖縄県がん診療連携協議会
普及啓発部会

「第 3 回メディアセミナー&ドクター i n 沖縄」報告書

参加者数：(医療関係者) 7 名、(マスコミ関係者) 3 名

司会者：増 田 昌 人 (琉球大学医学部附属病院がんセンター)

日 時：平成 25 年 5 月 11 日 (土) 14:00~16:45

場 所：琉球新報天久本社 2 階 多目的ホール

出演者：再生医療の臨床応用の実際と今後—iPS 細胞応用を踏まえて—

千葉 俊明氏 (琉球大学大学院 医学研究科医科学専攻 細胞病理学講座 准教授)

iPS 報道における問題点と課題

渡邊 清高氏 (国立がん研究センターがん対策情報センター、
がん情報提供研究部 医療情報コンテンツ研究室長)



医療報道の課題 関係者らが議論 那覇でメディアセミナー

メディア関係者と医療従事者が意見交換しながら、医療情報を正確に分かりやすく伝える方法を考える「第3回メディアセミナー&ドクターin沖縄」(琉球大学医学部付属病院がんセンター主催)が11日、琉球新報社多目的ホールで開催された。

とされる大学や論文の発行元への確認、複数の専門家に意見を聞く必要性が指摘された。

iPS細胞の臨床研究への期待が高まる中、会場からは「リスクや倫理的な問題を教えてほしい」との質問があった。これに対して琉球大学大学院医学研究科の千葉俊明准教授(細胞病理学講座)は「ES細胞(胚性幹細胞)、iPS細胞は何にでも変化するので腫瘍になるリスクがある。しかし、網膜なら腫瘍になってもレーザーで焼けると言われている。移植する体の場所によってリスクを分けて考える必要がある」と答えた。

医師と記者 報道で論議

メディアセミナー

医療報道の在り方を考える「第3回メディアセミナー&ドクターin沖縄」が11日、那覇市天久の琉球新報社で開かれた。県内で再生医療に関わる医師や地元メディアの記者らが、先端医療をめぐる新聞記事を読み比べ、報道の意義や課題を考えた。

琉球大学病院がんセンターが催した。同大学大学院医学研究科の千葉俊明准教授(細胞病理学)が、さまざまな組織や臓器になる能力があるヒトの人工多能性幹細胞(iPS細胞)などを臨床応用する際の課題について講演。「県内でも再生医療を指導、評価する公的組織を設立する必要がある」と語った。

後半は国立がんセンター

の渡邊清高・医療情報コンテンツ研究室長を講師に、東京大学病院の元特任研究員が昨秋、iPS細胞の臨床応用をめぐる虚偽の成果発表をした問題の記事を読み、科学的根拠など11項目の視点で評価を試みた。渡邊室長は「新しさを追うだけでなく、情報提供者と異なる意見も記事に反映させているかを含め、慎重さが求められる」と指摘した。